



障害者病棟とは？

障害者病棟といっても馴染みが薄いと思います。病床機能報告制度上、病床機能が『高度急性期』、『急性期』、『回復期』、『慢性期』の4つに分類され、各病棟が果たす機能を都道府県に報告することになっています。

慢性期機能とは、・長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能、・長期にわたり療養が必要な重度の障害者（重度の意識障害者を含む）、筋ジストロフィー患者または難病患者等を入院させる機能とされており、後者が障害者病床にあたります。

さらに詳しく障害者病棟の対象者を説明すると、

1. 重度肢体不自由者（脳卒中後遺症、認知症を除く）、
2. 脊髄損傷等の重度障害者（脳卒中後遺症、認知症を除く）、
3. 重度意識障害者（意識障害レベル JCS で II-3（または 30）以上、GCS で 8 点以下の状態が 2 週間以上続いている）、
4. 筋ジストロフィー患者、
5. 神経難病患者等となります。

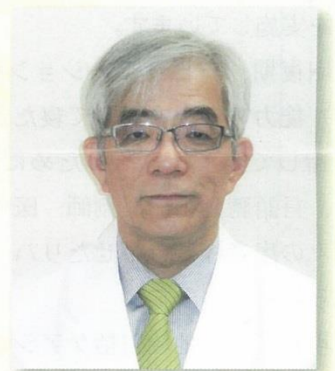
このような患者様が7割以上入院され、リハビリや医療的管理を受けながら安心して長期療養いただく病棟が障害者病棟です。入院期間に制限はありません。ご自宅への退院や他施設への転院も可能ですので、患者様の状態に合わせていつでも退院できます。

保険請求上は、あらかじめ定められた1日あたりの入院基本料（当院は10対1入院基本料）と保険点数として定められているすべての医療行為が算定できる出来高病棟となります（医療区分により一部包括算定となる）。適応外の3割の患者様も入院後90日間は出来高算定ですが、その後は条件が適格しなければ各種の治療検査等を実施したとしても特定入院基本料しか算定できない包括算定となり病院としては減収となります。

当院では、東6階25床、東5階50床、西5階50床、東4階50床、西3階50床の5病棟で計225床を障害者病床として運用しております。

医師を中心として専門の看護師、理学療法士などにより結成された専門チーム医療で高評価をいただきました千里中央駅に隣接している地理的条件が良いこともあり、病床稼働率96.9%（2024年12月）と高稼働を維持しております。

厚生省の方針として自宅での介護を勧められておりますが、日々の介護にご苦労されているご家族が多いとおもわれます。どうぞ、お気軽に当院障害者病棟への入院が可能かどうか主治医ともご相談のうえご紹介ください。



顧問
磯部 文隆

■ 追記

私は医師として、障害を抱えて入院を余儀なくされている患者様の人生の意義を日々考えさせられています。後期高齢者の仲間入りをし、終活を意識するようになりました。

マホトマ・ガンディーの名言の中に、「明日死ぬと思い、今日を生きるべし、永遠に生きると思い、今日に学ぶべし」という一節があります。今日からの1日1日を大切に過ごすように努めてまいりましょう。

ACPとは？

ACPとは、将来の意思決定能力が低下した時に備えて、患者さんとその家族、医療者が、今後の治療やご本人にとっての最善の生き方についてあらかじめ話し合うプロセスです。思いを整理し、生き方や考え方、希望、気がかりなことを伝えておくことは、ご本人にとっても家族にとっても“万が一”の際の治療方針の決定に大きな役割を果たします。ACPは病状が悪化するほど難しくなるため、治療開始と同時に少しずつ進めていくことが望ましいと言えます。途中で思いが変わることもあります。その人らしい生き方を周囲と一緒に探すが、ACPの第一歩です。千里中央病院では、患者さんがその人らしく療養できるよう、患者さん家族さんの思いをチームで支えるために活動しています。



（東4階病棟師長 高岡サユリ）

■ 病院概要

診療科／内科、脳神経内科、外科、整形外科、
脳神経外科、リハビリテーション科、
緩和ケア内科

病床数／400床

- ・一般障害者病棟：225床
- ・回復期リハビリテーション病棟：150床
- ・緩和ケア病棟：25床



リハビリテーション科

「回りハ増床について」

2024年10月、当院では一般障害者病棟50床を回復期リハビリテーション病棟へと転換しました。これにより、既存の病棟と合わせて、合計150床の回復期リハビリテーション病棟を有し、365日体制でリハビリを実施しています。

回復期リハビリテーション病棟では、機能回復やADL（日常生活動作）能力の向上を通じて寝たきりの防止を図り、社会復帰や在宅復帰を目指しています。そのために、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、医療相談員、管理栄養士がチームとなって、個々の患者様に合わせたリハビリテーションプログラムの立案・実施に取り組んでいます。

現在、国は地域包括ケアシステムの構築を推進しており、地域の医療ニーズに応じた柔軟な病床運用がより一層求められています。そうした



背景のもと、当院も地域の期待に応えるべく病棟の転換を決断しました。

リハビリを必要とする患者様をより多く受け入れられるよう、リハビリスペースの拡充や設備の充実を図るとともに、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の増員も行いました。こうした物的・人的な環境整備に加え、質の高い回復期リハビリテーション病棟の構築と、その維持・継続が私たちの重要な使命であると考えています。

今後も、患者様一人ひとりに対するリハビリの「量」と「質」の両面で高水準を保ち続けるため、職員一同努力を重ねてまいります。そして、地域に必要とされる病院であり続けるために、さらなる進化を目指してまいります。

（作業療法科 科長 野田温子）



広報委員長よりご挨拶

はじめまして、今年度から広報委員会の委員長を担当させて頂くことになりました放射線科所属の田崎です。どうぞよろしくお願いいたします。

広報誌「千里の道」は、2020年8月に創刊号として発行されました。それ以降、春秋と年2回のペースで発行されており、今回で第10号となります。

広報誌名「千里の道」の命名由来にある千里の道も一歩からの言葉のように、地域に住まう皆様が健やかに過ごせるには、時間をかけて取り組む必要があります。私たち千里中央病院職員は、確実に出来ることを一歩ずつ行うようにすることが大切であると考えております。

この広報誌「千里の道」が、地域の皆様の健康増進の一役になれるように、当院で行っている様々な話題・医療情報をわかりやすく、親しみのある紙面でお伝えしていきたいと思っております。



広報委員長 田崎 徹

癒しの空間...



千里中央病院に花の季節がやってきました。裏庭のガーデニングスペースのゼラニウム、ミニバラ、マーガレットが見頃を迎えています。用度課の方が丁寧に育てられた花たちが患者様や職員に癒しの空間を作っています。

編集後記

春がまもなく終わり外もすっかり夏のような天気、気温となっています。

こまめな水分補給等を行い、屋内ではエアコン等を使用し、外では帽子や日傘等を使い、なるべく直射日光を避けて熱中症等による体調不良に気を付けてお過ごしください。

（医事課 藤末）

● 病院理念 ●

『最高のホスピタリティを目指して』

私達は常に心と技術の両面から「最高のホスピタリティ」を日座し、後続的に院内環境を改善するよう努力してまいります。

基本方針

- 1) 地域社会との連携
- 2) チーム医療の推進
- 3) 豊かな人間性を持った医療人の育成